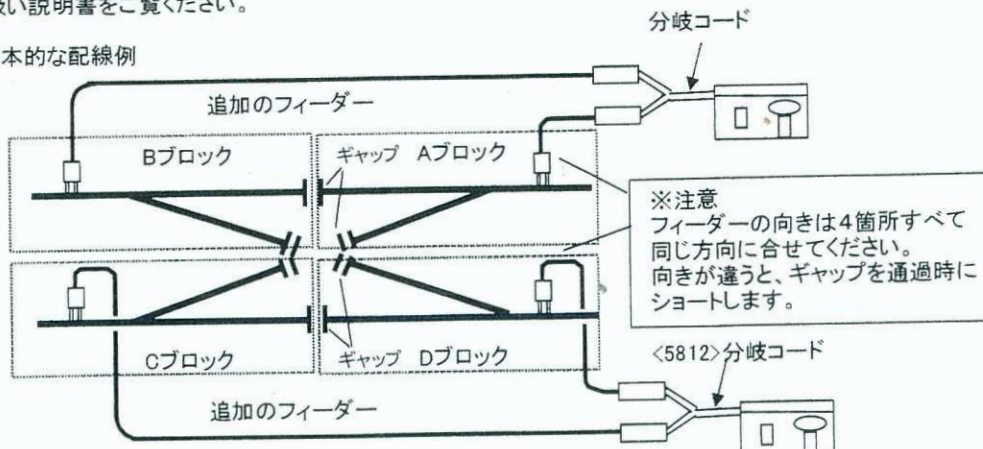


<N-PX280ポイントの電気構造と配線について>

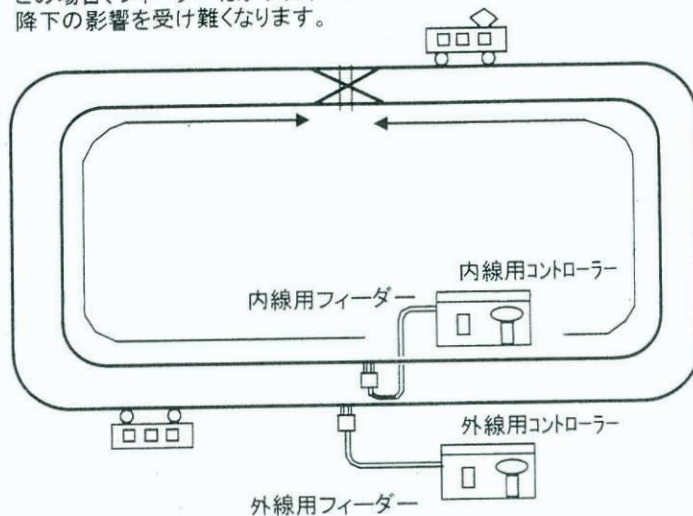
TOMIX

ダブルクロスポイントはその形状とともに通電構造なども非常に複雑に出来ております。通電については4箇所ギャップ(絶縁部)を設けてあり、それぞれが独立した電気構造になっておりそれぞれのセクションに通電するように配線する必要があります。なお下図はイメージのため、実際のギャップの位置は異なりますので、具体的な位置は製品の取り扱い説明書をご覧ください。

■ 基本的な配線例



- エンドレスで使用する場合は、レール自体が追加フィーダーと同じ役割をしますので、内線・外線それぞれにフィーダーは1本でも走行可能です。この場合、フィーダーはダブルクロスレールからもっとも離れた場所に設置すると電圧降下の影響を受け難くなります。



- エンドレスでもポイントやギャップレールなどがある場合は、無電区間ができるため補助フィーダーが必要です

